

<JSJ 卒業生・元在校生からの便り>

英語力に加え「日本語力」を育ててくれた JSJ に感謝！！

京都大学アメリカンフットボール部 彦坂祐輔

2019 年夏、私は大学を休学し、アフリカを周遊し、そこで活躍されている日本人の方と共にお仕事をさせていただく機会に巡り合いました。

このアフリカという過酷な環境でビジネスをされている方々が何を大切にされているのかをこの目で確かめたい、という思いで様々なことを勉強させていただきました。

現代はグローバル化が進み、海外との結びつきがこれまでに増して強まっています。その為、私は、これからは、「英語力」というものが、最も大切なのではないかと考えていました。

しかし、多くの方々にお話を聞かせていただき、また現地の人々と深く関わる中で、実は「日本語力」こそが最も大切だと気が付きました。

海外で実際に働けば、私たちは「一人の日本人」として見られます。

「この国ではどうなのか？」と質問すれば「では日本ではどうなんだ？」と返ってきます。働く中で最も重要なコミュニケーション能力。それは、ツールでしかない「英語力」ではなく、ものを考えるベースとなる「日本語力」から生まれるのではないかと思います。

この「日本語力」とは、ただ日本語をうまく使う力ではなく、日本の歴史や文化、慣習をきちんと身に着けそれを基にした“日本人としての深み”のようなものだと感じました。

そして、私がこの「日本語力」を大きく伸ばすことができたのは、ヨハネスブルグ日本人

学校で過ごした3年間でした。

ヨハネスブルグ日本人学校では、日本から派遣された極めて優秀な先生方が、日本のカリキュラムに基づき、質の高い授業をしてくださいます。日本の公立校や、南アの現地校と比べて日本人学校では一クラスの人数が少なく、一人一人のレベルに合った手厚いサポートをしてくださいます。私の場合は、中学三年間だったのですが、日本人学校の授業の中で学んだことと、先生方が出してくださる私にあった課題のみで、都立西高校に進学するには十分でした。

ツールとしての英語力も、また格段に身につきました。毎週、英会話（EC）の時間に外人の先生と少人数で会話する時間があり、英語を使う機会も十分でした。いずれ日本で大学受験をすとなれば、もし英会話（EC）の時間がなかったら、また一から英文法を勉強しなければいけなくなるため、中学のうちから基本的な英文法レベルから学べる環境は非常にありがたかったです。大学受験の時も、この日本人学校で培った基礎力が武器になったの言うまでもありません。

それだけでなく、日本人学校は、日本の小中学校では決して経験できないことを経験させてくれる場でもありました。孤児院との交流や、現地校との交流、異文化との触れ合いも、日本人学校の一員として経験することでさらなる深い学びを得ることができるのではないかと思います。

海外で子ども時代を過ごし、そこで日本語教育を受けるということには皆さまが考えるよりもはるかに大きな意味があると思います。

それは後々の自分を支える強い力となり、未来を照らしてくるものだと思います。

“国際感覚の豊かな人材”や“グローバルに活躍できる人材”といった、現在多くの場で語られている掴みどころのない“人材”は、ツールでしかない英語力ではなく、一人の日本人としてどう胸を張って生きていくかにつながる「日本語力」から、生まれるのではないかと思います。

私自身まだ 20 代前半の若造で、何も語れるような立場ではございませんが、様々な方と時間を共にさせていただき、尊敬できる日本人の方にお話を聞かせていただき、感じたことを整理させていただいた次第です。まだまだ先は長いですが、またいつか胸を張って母校を訪問できるよう精進していこうと思います。

私のヨハネスブルグ日本人学校での経験が、また誰かのお役に立てるのであれば幸いです。

拙文失礼いたします。

【自己紹介】

○東京都出身、現在、京都大学経済学部 4 年生、アメリカンフットボール部所属

父親がヨハネスブルグ日本人学校に教諭として派遣され、2008 年度から 2010 年度まで同校中学部に在籍。2011 年から都立西高等学校に進学し、卒業後、一年の浪人を経て、京都大学経済学部に入學、大学 4 年間アメリカンフットボール部に所属。2019 年夏から半年間アフリカ周遊。現在に至る。

※2020 年（令和 2 年）1 月 17 日寄稿